

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道165号及び一般国道166号(南阪奈道路)
事業主体	国土交通省・大阪府・奈良県・西日本高速道路㈱

事業の効果や必要性の評価評価に対応する事後評価項目

政策目標	指標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは を に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力 円滑な モビリティの 確保	現道等の年間渋滞損失時間(人・時間)及び削減率	推計年度(H42)削減量 3(百万人・時間/年) 削減率 0.06% 定量的評価指標の算出方法(案)準用
	現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満であった区間の旅行速度の改善状況	
	現道又は並行区間等における踏切道の除却もしくは交通改善の状況	
	当該路線の整備によるバス路線の利便性向上の状況	高速バス路線の新設 橿原市(近鉄大和八木駅) 関西国際空港 所要時間:81分(鉄道特急利用) 65分(高速バス) 料金:2,500円(鉄道特急利用) 1,900円(高速バス) バス利用者数:90千人/年(H17) 102千人/年(H19) 《資料》バス会社資料
	新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上の状況	
	第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上の状況	葛城市 関西国際空港(第一種空港) 所要時間:70分(H15) 50分(H18) 《資料》道路時刻表
物流効率化 の支援	重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上の状況	葛城市役所 大阪港(特定重要港湾) 所要時間:59分(H15) 48分(H18) 葛城市役所 堺北港(特定重要港湾) 所要時間:57分(H15) 38分(H18) 葛城市役所 神戸港(特定重要港湾) 所要時間:79分(H15) 68分(H18) 《資料》道路時刻表
	農林水産業を主体とする地域における農林水産品の流通の利便性向上の状況	葛城市 大阪鶴見花き地方卸売市場 所要時間:43分(H15) 33分(H18) 《資料》道路時刻表
	現道等における総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間が解消	
都市の再生	都市再生プロジェクトの支援に関する効果	
	広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路が形成(又は一部形成)されたことによる効果	
	市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携に関する効果	
	中心市街地内で行われたことによる効果	
都市の再生	幹線都市計画道路網密度が1.5km/km <sup>2</sup> 以下である市街地内での事業である	
	DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上	
	対象区間が事業実施前に連絡道路がなかった住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となった	

1. 活力	国土・地域ネットワークの構築	高速自動車国道と並行する自専道（A'路線）としての位置づけあり	
		地域高規格道路の位置づけあり	位置付けあり
		当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	
		現道等における交通不能区間が解消	
		現道等における大型車のすれ違い困難区間が解消	
		日常活動圏の中心都市へのアクセス向上の状況	葛城市役所 大阪市役所、52分(H15) 40分(H18) 《資料》道路時刻表
個性ある地域の形成	鉄道や河川等により一体的発展が阻害されていた地区の一体的発展への寄与の状況		
	拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントの支援に関する効果		
	主要な観光地へのアクセス向上による効果	観光入込客数の増加 広域観光施設 ・ 橿原市昆虫館（橿原市） 66千人/年(H15) 72千人/年(H19) ・ 今井まちなみ交流センター（橿原市）32千人/年(H15) 38千人/年(H19) ・ 国営飛鳥歴史公園（明日香村） 860千人/年(H15) 1,109千人/年(H19) 道の駅 ・ 吉野路大淀iセンター（大淀町） 216千人/年(H15) 306千人/年(H19) [観光バス台数：841台/年(H15) 2,421台/年(H19)] 《資料》資料：国営飛鳥歴史公園事務所・橿原市・橿原市昆虫館・吉野路大淀iセンター	
	特別立法に基づく事業としての効果		
	新規整備の公共公益施設と直結されたことによる効果		
	歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリックな道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業としての効果		
2. 暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	自転車利用空間が整備されたことによる当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性向上の状況	
		交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化された	
無電柱化による美しい町並みの形成	対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけあり		
	市街地又は歴史景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）等の幹線道路において新たに無電柱化を達成		
安全で安心できるくらしの確保	三次医療施設へのアクセス向上の状況	太子町 - 大阪府立中河内救命救急センター（東大阪市）、36分(H15) 23分(H18) 《資料》道路時刻表	

3.安全	安全な生活環境の確保	現道等における交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等による安全性向上の状況	
		歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置されたことによる安全性向上の状況	
	災害への備え	近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落が解消	
		対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業5ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	大阪府地域防災計画：広域緊急交通路 奈良県地域防災計画：第1次緊急輸送道路
		緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成	西名阪自動車道、国道165号
		並行する高速ネットワークの代替路線として機能	西名阪自動車道
		現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消	
		現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間が解消	
		避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加	
		幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消	
		密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯として機能	
4.環境	地球環境の保全	対象道路の整備により、削減される自動車からのCO2排出量	CO2排出削減量：0.72万t/年
		生活環境の改善・保全	現道等における自動車からのNO2排出削減率
	現道等における自動車からのSPM排出削減率	排出削減量：0.3t/年、排出削減率：0.002%削減	
	現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過していた区間の騒音レベルの改善の状況		
	その他、環境や景観上の効果	・日本最古の官道「竹内街道」に接していることを踏まえ、奈良県と協力して景観検討委員会を設置し、郷土種の自然植生の復元を実施。	
5.その他	他のプロジェクトとの関係	道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	
		関連する大規模道路事業との一体的整備の必要性または一体的整備による効果	
		他機関との連携プログラムに関する効果	
	その他	その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果	葛城市における工業地域の企業立地の増加 ・企業立地件数：13件(H15) 18件(H20) ・立地率[立地敷地面積÷工業適地調査区域]：77%(H15) 85%(H20) 企業物流の支援 ・製品の出荷で搬送車の一部が南阪奈道路を利用。 ・一般道と比べ片道約30分の短縮となり、大阪市内との往復や堺工場との行き来、関空からの海外出張にも大変便利。 《資料》資料：葛城市、企業ヒアリング

## 費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・B P・その他の別
一般国道165号及び一般国道166号 (南阪奈道路)	羽曳野～新庄	12.3km	一般国道	-

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
12,500～14,700	2	国土交通省・大阪府・奈良県・西日本高速道路(株)

## 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成20年度		
単純合計	1,117億円	235億円	1,352億円
基準年における 現在価値 (C)	1,428億円	129億円	1,557億円

## 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成20年度			
供用年	平成15年度			
単年便益 (初年便益)	79億円	5億円	2億円	87億円
基準年における 現在価値 (B)	2,634億円	180億円	65億円	2,878億円

## 結 果

費用便益比 ( B / C )	1.8
経済的純現在価値 ( B - C )	1,321
経済的内部収益率 ( E I R R )	7.6%

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

## 感 度 分 析

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比 ( B / C )
交通量	12,500 ~ 14,700	± 10%	1.7 ~ 2
事業費	-	-	-
事業期間	-	-	-

# 交通状況の変化

様式 - 3

## 事業名：南阪奈道路(羽曳野～新庄)

(推計時点 H42年)

			整備なし(A)	整備あり(B)		
新設道路(羽曳野～新庄):12km	交通量 <sup>1</sup>	[台/日]	-	13,900		
	走行時間 <sup>2</sup>	[分]	-	10		
	走行時間費用 <sup>3</sup>	[億円/年]	-	26		
主な周辺道路 <sup>4</sup>	国道16号線:15.5km	交通量	[台/日]	14,100	12,800	
		走行時間	[分]	25	23	
		走行時間費用	[億円/年]	67	59	
	西名阪自動車道:12.6km	交通量	[台/日]	88,800	80,300	
		走行時間	[分]	11	10	
		走行時間費用	[億円/年]	182	161	
	国道165号線:10.7km	交通量	[台/日]	9,000	8,600	
		走行時間	[分]	17	17	
		走行時間費用	[億円/年]	30	29	
その他道路合計	走行時間費用	[億円/年]	519,660	519,570		

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計:127206.3km	走行時間短縮便益	[億円/年]	519,940	519,843	97

- 1: 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。
- 2: 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。
- 3: 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。
- 4: 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

(2) 図面( ) に該当する道路を明示すること)



# 費用便益分析の条件

事業名：一般国道165号及び一般国道166号(南阪奈道路)

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)		
	その他		
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成20年度	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	(2030)
		複数時点での推計	
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	
		整備の有無のいずれかのみ推計	有 無
		いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	(H17センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	
		その他( )	
	開発交通量の考慮	無	
		有	
有の場合のみ		考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載	( )台トリップ/日
配分交通量の推計手法	Q - V式を用いた配分		
	転換率式を用いた配分		
	Q - V式と転換率式の併用による配分		
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)		
	簡易手法		
	簡易手法の採択理由	小規模事業である 山間部海岸部で併行道路が少ない その他( )	
	簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)		
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定 採用理由を記載		
	最終配分の速度 採用理由を記載		
	その他	センサスデータを使用し、高規格道路の速度は道路種別・車線当たり交通量から設定。また一般道の速度は、沿道条件・交差点密度等の道路条件を考慮し設定	



(3)

		項目	チェック欄	
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない		
		考慮する		
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	
			対象路線のみ考慮	
			採用した休日係数 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載	( ) %
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない		
		考慮する		
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数 採用した通行止め日数の考え方を記載	( ) 日
			とり止め交通を考慮する とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載	
	冬期交通の 影響	考慮しない		
		考慮する		
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数 採用した冬期日数の考え方を記載	( ) 日
			冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載	
交通流推計の 時点以外の 便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定			
	その他 ( )			
車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用			
	独自に設定した値を使用 算出根拠を添付すること			
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用			
	独自に設定した値を使用 算出根拠を添付すること			
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮			
	中央分離帯の有無を考慮しない			
走行時間短縮・走 行経費減少・交通 事故減少以外の便 益	考慮しない			
	考慮する (考慮の場合、算出根拠を添付すること)			
その他				



費用の現在価値算定表

箇所名:一般国道165号及び一般国道166号(南阪奈道路)				維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)			
				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				-	12.3km	-	
年次	年度	割引率	GDP デフレ-タ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在単価	単純単価	現在単価
-29年目	S 49	3.7943	58.5	0.1	1		
-28年目	S 50	3.6484	64.3	0.7	4		
-27年目	S 51	3.5081	70.7	0.8	4		
-26年目	S 52	3.3731	75.1	1	4		
-25年目	S 53	3.2434	78.3	0.7	3		
-24年目	S 54	3.1187	81.8	0.3	1		
-23年目	S 55	2.9987	87.7	0.2	0.9		
-22年目	S 56	2.8834	90.7	0.2	0.7		
-21年目	S 57	2.7725	92.7	0.3	0.9		
-20年目	S 58	2.6658	95.0	0.3	0.7		
-19年目	S 59	2.5633	97.9	0.2	0.6		
-18年目	S 60	2.4647	100.1	0.2	0.5		
-17年目	S 61	2.3699	101.5	0.2	0.5		
-16年目	S 62	2.2788	101.8	0.2	0.5		
-15年目	S 63	2.1911	102.5	0.4	0.8		
-14年目	H 1	2.1068	105.5	0.7	1		
-13年目	H 2	2.0258	108.0	1	3		
-12年目	H 3	1.9479	111.0	8	14		
-11年目	H 4	1.8730	112.4	8	14		
-10年目	H 5	1.8009	112.9	17	27		
-9年目	H 6	1.7317	112.8	20	30		
-8年目	H 7	1.6651	112.1	85	127		
-7年目	H 8	1.6010	111.6	55	79		
-6年目	H 9	1.5395	112.6	67	92		
-5年目	H 10	1.4802	112.1	131	172		
-4年目	H 11	1.4233	110.5	160	206		
-3年目	H 12	1.3686	108.7	135	170		
-2年目	H 13	1.3159	107.3	119	146		
-1年目	H 14	1.2653	105.3	150	180		
供用開始年次	H 15	1.2167	104.0	150	176	4	4
1年目	H 16	1.1699	102.9	4	5	5	6
2年目	H 17	1.1249	101.6	0.2	0.3	5	6
3年目	H 18	1.0816	100.9			4	5
4年目	H 19	1.0400	100.0			6	6
5年目	H 20	1.0000	100.0			5	5
6年目	H 21	0.9615	100.0			5	5
7年目	H 22	0.9246	100.0			5	5
8年目	H 23	0.8890	100.0			5	4
9年目	H 24	0.8548	100.0			5	4
10年目	H 25	0.8219	100.0			5	4
11年目	H 26	0.7903	100.0			5	4
12年目	H 27	0.7599	100.0			5	4
13年目	H 28	0.7307	100.0			5	4
14年目	H 29	0.7026	100.0			5	3
15年目	H 30	0.6756	100.0			5	3
16年目	H 31	0.6496	100.0			5	3
17年目	H 32	0.6246	100.0			5	3
18年目	H 33	0.6006	100.0			5	3
19年目	H 34	0.5775	100.0			5	3
20年目	H 35	0.5553	100.0			5	3
21年目	H 36	0.5339	100.0			5	3
22年目	H 37	0.5134	100.0			5	2
23年目	H 38	0.4936	100.0			5	2
24年目	H 39	0.4746	100.0			5	2
25年目	H 40	0.4564	100.0			5	2
26年目	H 41	0.4388	100.0			5	2
27年目	H 42	0.4220	100.0			5	2
28年目	H 43	0.4057	100.0			5	2
29年目	H 44	0.3901	100.0			5	2
30年目	H 45	0.3751	100.0			5	2
31年目	H 46	0.3607	100.0			5	2
32年目	H 47	0.3468	100.0			5	2
33年目	H 48	0.3335	100.0			5	2
34年目	H 49	0.3207	100.0			5	1
35年目	H 50	0.3083	100.0			5	1
36年目	H 51	0.2965	100.0			5	1
37年目	H 52	0.2851	100.0			5	1
38年目	H 53	0.2741	100.0			5	1
39年目	H 54	0.2636	100.0			5	1
40年目	H 55	0.2534	100.0			5	1
41年目	H 56	0.2437	100.0			4	1
42年目	H 57	0.2343	100.0			4	1
43年目	H 58	0.2253	100.0			4	1
44年目	H 59	0.2166	100.0			4	1
45年目	H 60	0.2083	100.0			4	0.9
46年目	H 61	0.2003	100.0			4	0.9
47年目	H 62	0.1926	100.0			4	0.8
48年目	H 63	0.1852	100.0			4	0.8
49年目	H 64	0.1780	100.0	-207	-37	4	0.8
合計				910	1,428	235	129
単純事業費計				1,117		235	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。  
 このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。  
 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

箇所名: 一般国道165号及び一般国道166号(南阪奈道路)

年次	年度 (基準年) H 20	総走行台数の年次別伸び率 (近畿(内陸+臨海)ブロック)			割引率 (A)	GDP デフレーター	走行時間短縮便益(億円)					走行経費減少便益(億円)					事故減少便益(億円)		合計 (億円)	
		乗用車類	貨物車類	全車			乗用車類	小型貨物	普通貨物	計	現在価値 ×(A)	乗用車類	小型貨物	普通貨物	計	現在価値 (A)×		現在価値 ×(A)	便益合計 (-)	現在価値 割引率4%
供用開始年次	H 15				1.2167	104.0	58	10	12	79	93	4	0.8	0.2	5	6	2	2	87	101
1年目	H 16				1.1699	102.9	58	10	12	80	91	4	0.8	0.2	5	6	2	2	87	99
2年目	H 17				1.1249	101.6	69	12	14	95	105	5	1	0.2	6	7	2	3	103	114
3年目	H 18	0.99934	0.99847	0.99906	1.0816	100.9	76	13	15	104	112	6	1	0.2	7	8	3	3	114	122
4年目	H 19	0.99934	0.99847	0.99906	1.0400	100.0	78	13	16	107	111	6	1	0.3	7	8	3	3	117	121
5年目	H 20	0.99934	0.99847	0.99906	1.0000	100.0	77	13	15	106	106	6	1	0.2	7	7	3	3	116	116
6年目	H 21	0.99934	0.99847	0.99906	0.9615	100.0	77	13	15	106	102	6	1	0.2	7	7	3	3	116	111
7年目	H 22	0.99934	0.99846	0.99905	0.9246	100.0	77	13	15	105	97	6	1	0.2	7	7	3	2	115	106
8年目	H 23	0.99934	0.99846	0.99905	0.8890	100.0	76	13	15	105	93	6	1	0.2	7	6	3	2	115	102
9年目	H 24	0.99934	0.99846	0.99905	0.8548	100.0	76	13	15	104	89	6	1	0.2	7	6	3	2	114	98
10年目	H 25	0.99934	0.99846	0.99905	0.8219	100.0	76	13	15	104	85	6	1	0.2	7	6	3	2	114	93
11年目	H 26	0.99934	0.99845	0.99905	0.7903	100.0	75	13	15	104	82	6	1	0.2	7	6	3	2	113	89
12年目	H 27	0.99934	0.99845	0.99905	0.7599	100.0	75	13	15	103	78	6	1	0.2	7	5	3	2	113	86
13年目	H 28	0.99934	0.99845	0.99905	0.7307	100.0	75	13	15	103	75	6	1	0.2	7	5	3	2	112	82
14年目	H 29	0.99934	0.99845	0.99905	0.7026	100.0	74	13	15	102	72	6	1	0.2	7	5	3	2	112	79
15年目	H 30	0.99934	0.99844	0.99905	0.6756	100.0	74	13	15	102	69	6	1	0.2	7	5	3	2	111	75
16年目	H 31	0.99934	0.99844	0.99905	0.6496	100.0	74	13	15	101	66	6	1	0.2	7	5	2	2	111	72
17年目	H 32	0.99934	0.99844	0.99905	0.6246	100.0	73	13	15	101	63	6	1	0.2	7	4	2	2	110	69
18年目	H 33	0.99888	0.99961	0.99911	0.6006	100.0	73	13	15	101	60	6	1	0.2	7	4	2	1	110	66
19年目	H 34	0.99888	0.99961	0.99911	0.5775	100.0	73	13	15	100	58	6	1	0.2	7	4	2	1	109	63
20年目	H 35	0.99888	0.99961	0.99911	0.5553	100.0	73	13	15	100	55	6	1	0.2	7	4	2	1	109	60
21年目	H 36	0.99888	0.99961	0.99911	0.5339	100.0	72	13	14	99	53	6	1	0.2	7	4	2	1	108	58
22年目	H 37	0.99887	0.99961	0.99911	0.5134	100.0	72	13	14	99	51	6	1	0.2	7	3	2	1	108	55
23年目	H 38	0.99887	0.99961	0.99911	0.4936	100.0	72	12	14	98	49	5	1	0.2	7	3	2	1	108	53
24年目	H 39	0.99887	0.99961	0.99911	0.4746	100.0	71	12	14	98	46	5	1	0.2	7	3	2	1	107	51
25年目	H 40	0.99887	0.99961	0.99911	0.4564	100.0	71	12	14	97	44	5	1	0.2	7	3	2	1	107	49
26年目	H 41	0.99887	0.99961	0.99911	0.4388	100.0	71	12	14	97	43	5	1	0.2	7	3	2	1	106	47
27年目	H 42	0.99887	0.99961	0.99911	0.4220	100.0	70	12	14	97	41	5	1	0.2	7	3	2	1	106	45
28年目	H 43	0.98984	0.99944	0.99296	0.4057	100.0	70	12	14	96	39	5	1	0.2	7	3	2	1	105	43
29年目	H 44	0.98974	0.99944	0.99291	0.3901	100.0	69	12	14	95	37	5	1	0.2	7	3	2	0.9	104	41
30年目	H 45	0.98963	0.99944	0.99285	0.3751	100.0	68	12	14	94	35	5	1	0.2	6	2	2	0.9	103	39
31年目	H 46	0.98952	0.99944	0.99280	0.3607	100.0	67	12	14	94	34	5	1	0.2	6	2	2	0.8	102	37
32年目	H 47	0.98941	0.99944	0.99275	0.3468	100.0	67	12	14	93	32	5	1	0.2	6	2	2	0.8	102	35
33年目	H 48	0.98930	0.99944	0.99270	0.3335	100.0	66	12	14	92	31	5	1	0.2	6	2	2	0.8	101	34
34年目	H 49	0.98918	0.99944	0.99264	0.3207	100.0	65	12	14	92	29	5	1	0.2	6	2	2	0.7	100	32
35年目	H 50	0.98907	0.99944	0.99259	0.3083	100.0	65	12	14	91	28	5	1	0.2	6	2	2	0.7	99	31
36年目	H 51	0.98894	0.99943	0.99253	0.2965	100.0	64	12	14	90	27	5	1	0.2	6	2	2	0.7	98	29
37年目	H 52	0.98882	0.99943	0.99248	0.2851	100.0	63	12	14	89	25	5	1	0.2	6	2	2	0.6	98	28
38年目	H 53	0.98869	0.99943	0.99242	0.2741	100.0	62	12	14	89	24	5	1	0.2	6	2	2	0.6	97	27
39年目	H 54	0.98857	0.99943	0.99236	0.2636	100.0	62	12	14	88	23	5	1	0.2	6	2	2	0.6	96	25
40年目	H 55	0.98843	0.99943	0.99230	0.2534	100.0	61	12	14	87	22	5	1	0.2	6	1	2	0.5	95	24
41年目	H 56	0.98830	0.99943	0.99225	0.2437	100.0	60	12	14	86	21	5	1	0.2	6	1	2	0.5	94	23
42年目	H 57	0.98816	0.99943	0.99218	0.2343	100.0	60	12	14	86	20	5	1	0.2	6	1	2	0.5	94	22
43年目	H 58	0.98802	0.99943	0.99212	0.2253	100.0	59	12	14	85	19	5	1	0.2	6	1	2	0.5	93	21
44年目	H 59	0.98787	0.99943	0.99206	0.2166	100.0	58	12	14	84	18	4	1	0.2	6	1	2	0.5	92	20
45年目	H 60	0.98772	0.99943	0.99200	0.2083	100.0	57	12	14	83	17	4	1	0.2	6	1	2	0.4	91	19
46年目	H 61	0.98757	0.99943	0.99193	0.2003	100.0	57	12	14	83	17	4	1	0.2	6	1	2	0.4	90	18
47年目	H 62	0.98741	0.99943	0.99187	0.1926	100.0	56	12	14	82	16	4	1	0.2	6	1	2	0.4	90	17
48年目	H 63	0.98725	0.99943	0.99180	0.1852	100.0	55	12	14	81	15	4	1	0.2	5	1	2	0.4	89	16
49年目	H 64	0.98709	0.99943	0.99173	0.1780	100.0	55	12	14	81	14	4	1	0.2	5	1	2	0.4	88	16
合計							3,402	621	714	4,737	2,634	261	50	12	323	180	117	65	5,177	2,878